

施策評価シート（平成29年度実績評価）

◎ 施策の基本情報

総合計画中期プラン	政策No.	3-3	政策名	生涯学習の推進	政策の目指す姿	生涯を通して学び、広い視野を持ち、活動しています	施策主管課	生涯学習課	施策主管課長名	藤原 瞳
	施策No.	2	施策名	青少年の社会教育	施策の目指す姿	地域社会の中で、自立した青少年が育っています	関係課名	市民生活総合相談センター		
	・次世代を担う青少年を心豊かで地域を愛する社会人に育てていくことは私たちの責務であり、地域や自然の中で人や社会と関わりながら、正しい規範意識と地域を愛する心、向上心を持つ青少年の育成が求められています。 ・インターネットやスマートフォンの普及などにより犯罪が多様化していることから、時代にあわせた青少年の非行防止策を講じていく必要があります。									

◎ 前年度の評価の振り返り

(前年度評価時の今後の方向性)

- ・子どもの頃から交流活動や芸術文化スポーツ体験活動の機会を設け、人と交流する機会を設ける。
- ・成人式の運営を通して、地域や社会との関わりや自ら行動する意識の醸成を図る。
- ・花巻警察署、花巻市防犯協会、地域ボランティア団体等と連携した活動を行う。

(反映状況)

- ・体験活動事業として児童の「気づき」を創出し、地域を愛する心を涵養できた。また、児童の「よきお兄さん・お姉さん」として、高校生が運営に参画し活動の支援を行うことで、子どもたちの一体感の醸成や達成感・自己肯定感・地域を愛する心の醸成に大きく貢献した。
- ・成人式における記念行事の実施について、記念行事実行委員会を組織して運営に携わったが、「記念行事を作り上げたという満足感」、「一つの目標に向かって、みんなで取り組む・作り上げるという達成感」や「実行委員の友人や仲間」など、実行委員会活動を通じて得たものは大きく、今後の地域や社会との積極的なかかわりを予感させられた。
- ・街頭補導活動については、花巻駅周辺、公園、遊技場など非行や不良行為が行われやすい場所や、学校が長期休業期間中、各地域での催事の際などに合わせて重点的に巡回し少年非行の未然防止と早期発見に努めた。環境点検活動については、有害図書自動販売機の設置場所及び設置台数の状況を防犯協会と合同で点検し、県や花巻警察署と情報共有することに努めた。

1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取組

- (1)青少年活動の推進
 - 青少年健全育成のための事業の開催
 - ・「はなまき！おもしろ探検隊」事業の実施
 - 青少年健全育成事業の支援
 - ・花巻市青少年育成市民会議への補助
- (2)青少年の非行防止
 - 少年センター等による青少年の非行防止
 - ・少年補導委員による街頭補導活動

2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか)	成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するのか)	単位	数値区分	H26	H27	H28	H29	H30	H31
地域で行われている行事やボランティア活動に、青少年が参加していると思う市民の割合(A-10)	青少年が地域の中で行事やボランティア活動に加わるなど、地域社会の一員として育っているかどうか市民の認識の度合いを示す指標	出典:市民アンケート 問:地域で行われている行事やボランティア活動に、青少年(小学生～20歳位)がよく参加していると思いますか? (1)そう思う(2)どちらかといえばそう思う(3)どちらとも言えない(4)どちらかといふとそう思わない(5)そう思わない (1)(2)と答えた市民の割合	% 実績値	目標値	32.0	34.0	36.0	36.0	37.0	39.0
				実績値	30.0	32.6	34.7	35.1		
青少年の健全育成活動にかかわった市民の割合(A-11)	地域社会の次代を担う青少年の育成のため、地域での子どもの見守りや健全育成活動など、具体的な市民の取り組み状況を示す指標	出典:市民アンケート 問:あなたは、昨年1年間に何らかの青少年健全育成活動(子ども会、スポーツ少年団等の地域の青少年団体活動、スクールガード等)にかかわったことがありますか? (1)ある(2)ない (1)と答えた市民の割合	% 実績値	目標値	23.0	26.0	29.0	26.0	27.5	29.0
				実績値	19.8	22.5	21.7	22.1		

3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
C	<p>■成果指標「地域で行われている行事やボランティア活動に、青少年が参加していると思う市民の割合」…【達成度b】</p> <p>・学校基本調査によれば、平成25年度花巻市の小学校児童数及び中学校生徒数の合計は8,040人、平成29年度花巻市の児童数及び生徒数の合計は7,308人で、約700人減少しているものの、実績値は0.4ポイント上昇していることから、地域行事やボランティア活動に参加する青少年の割合は漸増している。これは、青少年と各コミュニティ会議との関わりが密接になってきていることが要因と考えられる。</p> <p>■成果指標「青少年の健全育成活動にかかわった市民の割合」…【達成度c】</p> <p>・年代ごとの実績値は、30代が37.7%、40代が44.5%と青少年の親世代の割合が高い。登下校時に児童・生徒が巻き込まれる事故・事件が報じられる機会が多いことや、不審者情報等の情報が共有できる環境にあることなどから、関心を持つ市民は一定割合でいるものの、親世代以外の年代のかかわりが低い。</p>

4 施策を構成する事務事業一覧

5 施策を構成する事務事業の検証

(①市民ニーズや市の関与の必要性が低下した事業、②投入コストのわりに成果が低い事業、③施策への貢献度の低い事業はないか)
なし

(施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか)

- ・関係機関等と連携した、各種事業を通じた青少年育成が必要である。
 - ・少年センター活動の周知のために、少年補導委員の増員や広報活動が必要である。

(新たに取り組むべき事業はないか)

- ・なし

6 施策の総合的な評価

(課題)

- ・関係機関と連携を密にしながら、各種事業を通じた青少年育成活動が必要である。
 - ・少年補導委員の増員や、少年センター活動を周知するための広報活動が必要である。

(今後の方向性)

- ・生涯学習分野に限らず、時代に対応した青少年育成に関する事業を展開する。
 - ・少年補導委員の後継者育成を図るとともにSNS等を活用するなど、広報誌以外での、SNS等を活用するなどPR方法を増やす。